

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781

<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成15年9月(2003年) No.453

大阪アマチュア映像祭・10クラブが競映 11月16日(日曜)大阪市立中央図書館にて

第7回大阪アマチュア映像祭は、今年も大阪市立中央図書館との共催により、11月16日(日曜日)13時より、大阪市立中央図書館講堂にて開催されます。今年は、高槻ビデオクラブが新加入し、10のクラブがそれぞれ代表作を持ち寄って発表いたします。ご期待ください。

■プログラム：①清姫情炎太鼓：岡本至弘(OMC)、②流れ橋：逢坂真一(映像北大阪)、③牛滝山の詩：上田吉巳(映像きしわだ)、④熊川宿を訪ねて：津田市朗(高槻ビデオクラブ)、⑤インレー湖の人々：山本孝子(OVC)、⑥城下町彦根・玄宮園散策：市川静雄(寝屋川市映像協会)、⑦ようこそ吹屋へ：山手陳男(高槻ビデオクラブ)、⑧牛窓：紙本勝(天満ビデオクラブ)、⑨アラビア海の漁民達：山本正夢(OMC)、⑩光車よ走れ：新堂順一(ビデオサークル堺)、⑪ようおいでんさった：岡本康義(平野映像塾)、⑫蘇れ法善寺横丁：故安居良枝(平野映像塾)、⑬マッターホルン見たかった：竹田幸男(寝屋川市映像協会)、⑭イン・ザ・サマー：小北勲(寝屋川市映像協会)、⑮京都清水寺かいわいビデオ散歩：高野和雄(映像きしわだ)、⑯風のささやき：石原隆行(天満ビデオクラブ)、⑰市場まつり：打越武義(映像北大阪)、⑱卑弥呼伝説：馬淵訓平(ビデオサークル堺)、⑲住吉よいとこ住みよいとこ：合同作品(住吉区ビデオクラブ)、⑳平野の町屋で二人展：今井嘉明(平野映像塾)、㉑堂塔伽藍：有村博(OVC)、㉒レクイエムII：関剛(OMC)、㉓熊野生いき人生：合原一夫(OMC)

■OMC公開映写会(10月4日)の観客動員にご協力ください。

9月例会のお知らせ

9月例会は、第4土曜日27日18時より、大阪駅前第2ビル5階大阪市立総合学習センターにて開催します。暑さも和らいでいる頃です。初秋の一夜、例会と二次会で楽しいひと時を過ごしましょう。作品もご遠慮なくお持ちください。

■神戸映像・発表映写会は10月26日(日)

第44回神戸映像発表会は、兵庫県民会館9Fホールにて10月26日13時より行われます。カノープス、ローランドの展示と相談コーナーも設けられるとのことです。

■続・全国ビデオコンテスト情報

■第16回飛騨高山ドキュメンタリー映像祭
今年より「飛騨高山ビデオ映像祭」を衣替えし、ヒューマンドキュメンタリー部門と飛騨高山部門が設けられています。

■第1回ビデオ力作コンテスト：ローランドの機器使用が条件。5分以内の作品。

■琵琶湖・淀川流域ビデオコンテスト
テーマは琵琶湖、淀川流域に関するもので、3分以内の作品。

■8月例会レポート

残暑厳しい中でしたが、暑さをものともしない会員各位が29名も出席し月例会を始めました。今月はベテラン会員2名が新入会され拍手で迎えられました。また10月4日に決まったOMC映像フェス出品作品も映写担当の藤原さんに渡されて、いよいよ目前に迫ってきた映写会に向かって準備万端整いつつあります。プログラムの印刷も業者へ発注したとのことです。今年も粒の揃った力作が揃っており、OMCの名に恥じない映写会にしたいと一同張り切っています。司会は有村さん、書記は前田、デッキ係は増池さん、江村さん、受付は、奥さん、渡辺さん、宮崎さんの担当で会を進行しました。

■新会員

小竹 正さん：〒639-2301 御所市元町
10-51 TEL0745-62-8357

紙本 勝さん：〒533-0001 大阪市東淀
川区井高野2-4-60 TEL 06-6340-2004

■出席者(敬称略)

有村、今井、岩井、江藤、江村、岡本、奥、金子、河合、進藤、関、玉井、中尾、那須、西村、華岡、藤原、前田、増池、宮崎、森口、森、森下、森田、安居、吉岡、渡辺、小竹、紙本の29氏。

■コンテスト入賞お知らせ

第33回「和歌山県アマチュア映像コン

クール」に昨年の岡本さんの小豆島撮影会作品「小豆島紀行」が見事に和歌山県議会議長賞に入賞されました。この賞は最高賞の次ぎに当たるそうです、おめでとうございます。

■上映作品(今月の講評は前田世話役です)

1. ビクターHDテスト

前田 茂夫 7分40秒

ハイビジョン映像を期待したが、カメラとプロジェクターとの接続が、アナログ・コンポジット端子での結線であったために映像が非常に悪く残念な結果でした。同じ映像をインターネットで見の方がはるかに綺麗なものでこちらで見たいとのことでした。但し、光ファイバーが必要です。

2. 山伏の街

小竹 正さん 10分20秒

今月入会したので、名刺替わりにと持参された作品。ベテラン作家だけあってソツなくまとめられてあるのはさすが年がものをいっている。地元の行事だけに撮影するツボを押さえてある印象であった。この作品は行事の記録作品であるから最初にもっと場所の紹介が欲しかった。俯瞰で街の全景があるとよいのですが無理でしょうか。まず簡単な地図を入れて視覚で場所を判らせる。テロップで紹介や目的が流れるが、この種の作品はナレーションがあった方がよいのではないのでしょうか。旧家に男性3人が話し合っているカットは意味が理解できませんでした。全般に類似カットが多かったように見受けられました。山伏の問答と矢を射るカットがアップで撮られていたのは大変よかったです。しかしBGMがおとなしすぎたようでした。クライマックスは、SEだけにしてもっとショートカットでたたみ上げたほうが印象が強かったように思いました。珍しい行事で関心をもって最後まで引きつけられました。

3. 73才の自立

安居 利次さん 7分30秒

奥さんを亡くされて初めて見せていただいた作品。最愛の妻を亡くされても、このビデオ制作という好きな道のお蔭で落ち込むことなく、これからの余生を生き抜く決意を見せていただきました。先に逝かれた良

枝さんとしても、ご主人の力強い生き様を見て、さぞ天国で喜んでおられるのではないのでしょうかと思いました。ビデオ仲間としても安堵すると同時に、同じ趣味に生きる者としてこの道が本当に素晴らしいものであることを改めて感じました。作品としては、よくぞこれほどこまめにカットを拾われたのかということに驚きを禁じえません。良枝さんの作品もそうでしたが、ご夫婦でビデオカメラを持ったときからずっと家庭の記録を撮りつづけていることに敬意を表します。家庭を記録するというホームビデオの根本を忠実に実行され、普段の生活を余すことなく記録するという姿勢に脱帽です。ただ全般にショート気味のカットの連続で、じっくりと雰囲気浸るということが出来ないのは残念です。TOPの奥さんとの最後のお別れのシーンとなった手術室へ向かうカットはつらいのですが、さらっと流されていたのは却って救われました。映像はどんな作品であれ、余韻をもって終わって欲しいと思いますが、この作品もナレーションの後、もっと余韻を残して終わって欲しかったと思いました。

4. 岡蒸気山登り

有村 博さん 9分17秒

有村さんはタイトルの付け方がお上手だと前にも書いた記憶がありますが、この作品もその表現にピッタリの題名です。SL好きな私なら、「登山はSLに乗って」「ブリエント・ロートホルン登山鉄道」ぐらいしか思いつきません。岡蒸気とは驚きました。映像は同じ列車に乗ってそのまま下ることから、SLを横から見た映像が撮れなかったと作者の弁ですが、本当に残念でした。来年は横から撮られるそうで期待しています。このSLの燃料が何なのか、とうとう解らず仕舞いでした。また頂上駅で休憩しているときのSLの細部をもっと見せて欲しかったです。登山SLですから、勾配に合わせてボイラーは斜めに付いているのですがその辺りもジックリ見たかったです。しかしSL好きにはたまらない映像でした。

5. 津野山神楽(改作)

河合源七郎さん 8分52秒

日本最後の清流といわれる四万十川の源流部の山村のお神楽をまとめた作品。このような山深いところまで訪ねて作品をモノにされた努力に敬意を表します。作品の構成はいたってオーソドックスなまとめ方でソツがなく見せてくれます。赤鬼が幼女をさらって舞うシーンは、厄除けでしょうが、テロップで簡単なコメントがあってもよかったのではないかと思います。なかなかの力作で良く出来ていました。

6. 微笑み大野葡萄

藤原 純三さん 14分45秒

藤原さん久々の大作で、いわゆる出来るまで作品の部類に入ります。12月の剪定作業から始まって13回ほど通われたとかで大変な努力作品です。施肥作業、誘引作業、袋かけ作業、収穫作業などなかなか手間のかかる作業が続きます。葡萄作りにこれほど手間がかかるとは、この作品をみて初めて理解しました。懇切丁寧に作業を追って撮られているので、葡萄作りの過程はよくわかりました。しかし見終わって何かものたらないのは、生産者のプライベートな面が撮られていないためでしょう。この種の作品は、その人の個人的な面まで踏み込めれば、重みのある人間ドキュメンタリー作品になります。しかし、相手がそこまで協力してくださらないと出来ないのが大変残念なところですよ。8ミリフィルム時代はこのようなヒューマンドキュメンタリー素材があちらこちらにあって、アマチュアでも結構撮れたのですが、最近はテレビ屋さんが押さえてしまって、非常に少なくなっています。それでも時々OMCで発表されるのは嬉しいことです。

7. 蘇ったマメタンク

前田 茂夫 11分56秒

先月上映した作品を、ご指摘に沿って手直ししたと持参したものの。ラストシーンを入れ替えたのと、SLファンへのインタビューを減らしたこと、それにナレーションを入れたことが改良点です。確かに前作より良くなったとのコメントがありました。

8. この夏水前寺公園にて

関 剛さん 6分45秒

この作品をみて感じたことはまず関さんらしからぬ平凡はタイトルであるということ。映像美は、関さんの最も得意とする感覚的な描写がありはっとするようなショットがいくつもありました。BGMの使い方はさすがに独特の選曲で恐らく誰も真似の出来ない使い方で勉強になりました。素材は熊本の水前寺公園の風景であるが関さんの特有の感性が、このような抽象的な印象を与える作品となるのでしょうか。朱の鳥居のズームアップのところから、薪能らしいショットのカットバックが出てくるが、ここが関映像の真骨頂とでもいうべき関さんの世界だと見うけました。しかし何を表現されたいのかは、私には解りませんでした。また超アップの印象的なカットは素晴らしいのですが、超ロングの説明的なカット(人が小さく歩いている)はやはりこの作品にはそぐわない様に感じました。人の居ないメディアムのカットにとどめておいた方が、良かったのではないかと思われました。

9. 城と梅

増池 茂さん 6分20秒

撮影技術がしっかりしているので安心して見ていられる作品です。ロングとアップも適宜撮られており雰囲気は良く出ていたと思います。この種の作品では、花の超アップはむろん必要ですが、そのアップの花を眺めている人のアップも欲しいと思います。ここは勇気を出して、通行人にお断りをしてアップを撮らせてもらったら良かったと思います。卒業式帰りの女子学生およびスケッチしている女性の目線をアップで見せて梅のアップに切り変えると大変良かったと思います。

10. 夏・長岳寺

江村 一郎さん 5分55秒

この作品は久々に江村流ともいべき感覚的な映像美を堪能させてくれました。江村さんのカメラアイで捉えた超アップはさすがに、独自の境地を醸し出しています。BGMも、抽象的な音楽を使って、この映像にピッタリ合っていたように思いました。しかし、幾つか気になったことをあげると、タイトルに固有名詞を付けているが、固有名詞でない方が良く「夏・山寺」くら

いの方がよかったと思いました。全編にセミの声が、BGMと同じ音量でミックスされている。夏の暑い印象は受けるが、映像としてはどうでしょうか、前半はSEをメインに暑さを演出し、後半はBGMとSEにして、エンディングはBGMだけで終わって欲しかったと思ったのは私だけでしょうか。

以上で例会を終え、喫茶組と居酒屋組に別れてそれぞれ二次会を楽しみました。

<フラッシュバック>

(Vol.2)

文：岡本 至弘

～ほろ酔い談義もいいものだ～

今年の夏は異常気象とかで雨の日も多かったが、それでも蒸し暑さはかわりません。その猛暑の中でせせせと作品をつくって例会に持ってくる会員さんには脱帽します。そして20名をこえる例会出席者、この熱心さにも驚きます。

さて、例会レポートは毎号載りますが、その後の二次会レポートは載りませんのでちょっとレポートしてみます。

例会が終われば、喫茶組と居酒屋組に2対1ぐらいに別れるようです。

私は居酒屋組の方なので、まずはこちらのレポートから。

こちらの方は、お酒の好きな連中ばかりなので例会よりもこちらを楽しみに出席している会員さんもおられるようです。

まずは、生ビールで乾杯をしてその日の例会の作品や講評を酒の肴にしていっぱいやるのもなかなかいいものです。すこし酔いがまわれば、ちょっと、ちょっと今日の〇〇さんの作品どう思うとちょっぴりきびしい意見もできることも。酔いにまかせてつこんだ意見も、なかなか勉強になります。〇〇さんがこの場にいれば大変参考になったろうに思うこともあります。

月一回の例会+ほろよい談義もなかなかいいものです。

喫茶組の世話役さん、たまには烏龍茶でほろよい談義を聞きにきてみては

いかがでしょうか。

「OMC」ってほんとうに楽しいクラブですよね。